



羅針盤

社会科部 情報活用委員会

主体的に仲間とかかわりながらよりよい社会を考える

大門小学校 校長 石原 真吾

第5学年「環境を守るわたしたち」の授業。単元のはじめ、川が汚れた事件のニュースで「つかみ」ます。川の水のきれいさや用途、川自体の活用方法など、行政の職員、川を美しくする会のゲストティーチャーの工夫や努力に興味をもち「掘り起こし」をしていきます。

そして本時、子供たちの意識は「自分たちに何ができるか」に集約されていました。

導入で前時までの振り返りを行うと、自然に学習課題が子供から生まれました。「川をもっときれいにしていくためにどんなことができるだろう」。教師がこれまで子供たちの主体性を保障した授業を丁寧やってきたことは、子供たちの発言の仕方やタブレットの使い方などを見ると分かります。調べ学習がコラボノートに蓄積され、その子の考えの変遷や積み上げが分かるようになっていきます。調べの積み上げの課程で川を取り巻く人々が「仲間」として認識されています。

教師は「わが町の川」を意識させ、主体的にボランティアに向かう姿をイメージした発問をしました。ところが子供たちの中にはすでにこの授業を通して「汎用化」「一般化」に向かう意見が散見されました。つまり、川は山とつながり海とつながり、多くの町や人とつながっているからわたしたちの行動は一つの川にとどまらないのだと。5年生の子供たちは学区の川を通して「わが国」を見ているのではないかと思えてきました。教師が子供の主体性を保障しながら目指す姿に向かって、教材が語り掛けてくるもの、仲間が語る言葉を効果的に配置すると、見方・考え方に多様性が生まれ、深さを感じる意見に出会えるのだと感じました。

令和2年度 小学校社会科で使用する教科書等について

①【児童用】

	◎＝令和2年4月配付 ▲＝配付済み
3年生	◎3年教科書, ◎地図帳(帝国書院), ◎令和2年度版「おかざき3・4年(上・下)」
4年生	◎4年教科書, ◎地図帳(帝国書院), ▲平成31年度版「おかざき3・4年(上・下)」
5年生	◎5年教科書, ▲地図帳(東京書籍)
6年生	◎6年教科書, ▲地図帳(東京書籍), ◎令和2年度版「おかざき」(徳川家康)

※令和3年度以降、地図帳は3年生のみで配付されるようになります。

②【3・4年生の評価テスト】

- ①平成31年度に使用したものをご使用ください。昨年度配付のCD-Rを利用するか、社会科部ホームページからダウンロードしてください。
- ②新単元の評価テストは、社会科部のホームページからダウンロードしてください。(4月アップ予定)

③【教師用の教科書】

『令和元年度の3年生教師用「おかざき(上・下)」』と『指導の手引き(黄色の表紙の冊子)』は、令和2年度も使用します。社会科主任の先生で回収し、確実に引き継ぎができるようにしてください。

新学習指導要領 中学校社会科移行措置への対応（令和2年度）

★3分野別 授業時間

地理分野	・115時間	3分野とも、令和元年度と同じように、移行措置対応をお願いします。
歴史分野	・135時間	
公民分野	・100時間	

★詳しい具体的内容については下記「資料」をご覧ください。

- ① 「令和元年度 第3回社会科主任会」の「資料」を読む。
- ② PC → 現職研修部 → 03 社会科部 → 「移行措置関係資料 組織内資料として活用」の中に「資料」のデータが入っています。

発見！一押し地域教材！！

「鳥居強右衛門」「天恩寺の見返り大杉」

（宮崎小4年 竹内謙作 先生）

★授業への活かし方★

小学校4年生・小学校6年生の「おかざき学習」
におすすすめ。

「〇〇だから、□□と思いました」という感想が見られ
ます。奥平氏や鳥居強右衛門といった家康を大切に
した家康の人物像について、調べて分かったことを根拠
に自分の感想が述べられています。（指導員）

★この教材のポイント★

宮崎小学校の子供たちにとって、徳川家康はどうしても子供たちから遠い存在になってしまいます。
そこで、できる限り宮崎小学校に近い場所での人物や逸話を取り入れることで、子供たちが関心をも
って学習に取り組めるように「鳥居強右衛門」と「見返り大杉」を教材として取り入れました。

★この教材で学んだ子供の感想★

家康は鳥居強右衛門から「助けてほしい」と知らせをうけたらすぐに引きうけて助けにいったからや
さしい人だと思いました。（また、家康が）「はとがくつ」にかくれた時に、はとが出てこなかったらこ
ろされてしまっていたかもしれないから、（家康は）運がいい人だったんだと思いました。天恩寺がそ
んなにすごいお寺とは初めてしりました。まだ行ったことがないので、一度行ってみたいと思いました。



天恩寺と見返り大杉

天正3年（1575）に武田の軍が長篠城を包囲し、落城目前にして城主奥平信昌は鳥居強右衛門に命じ、岡崎の家康に事の急を報告しました。家康は急ぎ出陣し、天恩寺に一泊しました。翌日、大杉のところで延命地蔵に呼び止められ、振り返ると敵の刺客が弓を射る寸前でした。危うく難を逃れた家康は、この大杉を何回も見返りながら長篠に向かったといい、このことから「見返りの大杉」と呼ばれるようになったといいます。（岡崎市ホームページより）